



一般社団法人

DRCT

Disaster×Reconstruction×Cooperate×Team

災害復興協力チーム

「ダイレクト」のご案内

「想定外」を「想定内」に

今後30年以内に70~80%の確率で発生するといわれる

南海トラフ地震を想定し、準備・復興支援対策チーム「DRCT」を立ち上げました。

巨大地震は国家の存亡に関わる国難であり、

全国規模の横のつながりと全産業の協力が必要となります。

私達DRCTチームメンバーは建設業界に携わっており、

地域インフラや社会活動の復旧・復興のお手伝いを一番に考えることが、

地域社会やお客様への恩返しになると信じています。

DRCTは大災害時、地域産業の復旧・復興に全力で取り組んでまいります。





屋

薬

号

WVA
LAWSON

P
森屋団地
契約
信号機
折
太丸トキ

災害復興協力チーム計画をご理解いただくために

DRCT 理念

本組織の理念は、巨大地震災害発生時に「被災者の衣食住の確保」「地域産業の復旧・復興」を促すことであると考えます。地域産業の復興は、経済の停滞を抑え国の繁栄にも繋がるはずです。地震、津波、台風、水害、噴火等「想定外の災害を想定内に」をモットーにしています。

災害復興協力チーム「DRCT」の目的と役割

回復力のある社会の形成を図ることを目的として次の事業を行います。

1. 災害により被災した食料品・衣料品の供給元に対する復旧工事
2. 防災・減災・災害復旧・避難生活等に関する研究、開発、コンサルタント業務
3. 協働型災害訓練の企画・運営
4. 防災意識の普及・啓発等、防災に関する広報活動

行政と大手ゼネコン

「インフラと公共施設」の復興工事に集中

中堅建設業

被災者の住と民間施設の復興工事に集中

DRCT

災害時に「食料」供給元の復旧を第一に行動し、「衣・住」への復興につなげます。

DRCTの行動指針

「被災者」の為に「衣・食の供給元」の復旧・復興・早期再開を支援

被災した場合、最も必要となるものは水と食料です。先の東北大震災や熊本地震、平成30年豪雨、令和元年台風15号での千葉県の被害でも災害現場では食事がまともに得られていない状況でした。大災害になれば更に食の確保が困難となります。行政と大手ゼネコンは「インフラと公共施設」の復興工事に集中し、中堅建設業者は被災者の「住と民間施設」の復興工事に集中することが予想されます。しかしDRCTは災害時に被災者の「食料」の供給元である食品関連会社の復旧・復興に全力を挙げ早期再開を支援します。



出典:南相馬市WEBサイト

組織の構成

▶ 本組織の役割分担

1	2	3	4
本部活動、 業者との協力体制の調整	復興工事事部	解体部・産廃部	後方支援体制と 物資の精査・改善

▶ ご賛同会員様の募集及び全国展開

本組織の趣旨「需要と供給の確立」をご理解のもと、衣食の供給元（店舗・企業様）のご賛同会員を募る

▶ ご賛同会員様との連携（反社会勢力の排除）

▶ その他

- 組織を拡大しメディアを巻き込み影響力を大きくして、行政を動かす。
- 大手ゼネコンには依存しない。力関係がアンバランスにならないよう、草の根運動で組織を作り上げる。
- 初め的一步を踏み出す「情熱」と「行動力」と「夢」の旗揚げ
→ 災害復興準備室の立ち上げ（ハーツ新社屋内）



災害発生時の DRCT 活動について

▶ DRCT 災害出動の定義

災害が発生した際、被災者がそこに存在し食の供給元（店舗・企業様）の依頼がある場合に DRCT 出動。
被災地域の食の供給元の復旧工事を最優先に行う。

1	被災地の状況の収集 二次災害の回避確認	2	現場状況確認・人材と資源の確保 組織開拓・全国展開	3	道路確認 行政・マスコミと連動
4	物資後方支援確保 全産業を巻き込む	5	現地通信確保 スマホIP無線（組織専用）	6	被災地支部と本部との組織的活動等 理想の全国展開

▶ 1DAY 出動ルール

3時間以内	災害店舗の連絡待機 (情報収集と各自社現場の收拾対応の完了)
5時間以内	役員集合 ・担当ブロック旗艦店・周囲の情報収集と対策＝県本部連絡 ・店舗担当者チェックリスト確認 ・DRCT 会員被害状況確認と待機
8時間以内	現場打合せ＝トリアージ判断（早期開店順位判断） ・現場協議内容を本部が検討会議→早期復興を見極め決定
24時間以内	復旧工事着手

▶ トリアージ方針

第1順位	軽度な損傷	即時復旧可能
第2順位	構造問題なし・電気正常	復旧可能
第3順位	構造問題なし・電気無し (レンタル機器・燃料の確保)	復旧可能
第4順位	構造問題あり (亀裂・変形・雨漏れ等)	復旧不可能※

※大規模地震の直後は余震発生が予想されるため、
構造に問題がある場合（第四順位）は作業員の安全面に考慮し復旧不可



DRCT チェックリスト

☑ 大災害を忘れていませんか？

主な大災害＝阪神淡路大震災（1995）、東日本大震災（2011）、広島中心の西日本豪雨（2018）、熊本地震（2016）、伊勢湾台風（1959）、近年のメガ台風

☑ 災害対策はできていますか？

- BCP 対策は企業にとって必要不可欠な取り組みとなっています。それは机上の空論でなく、有事の行動に結びつける有効な対策でなければいけません。例えば災害時に社員との連絡及び会社継続のための段取りなど。
- 個人的防災対策・災害時のチェックリスト・保存食品の賞味期限等の確認などが必要です。
- 被災直後は混乱で組織的活動ができません。また、人・物・機材・資材・情報が圧倒的に不足します。単独のBCPだけでは限界があります。平時より組織的な準備と備えが大切です。

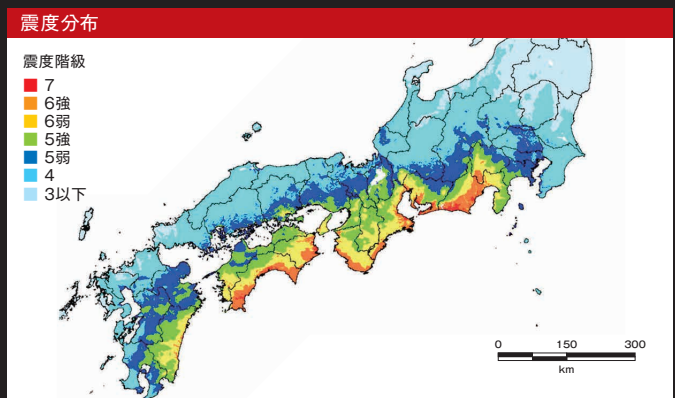
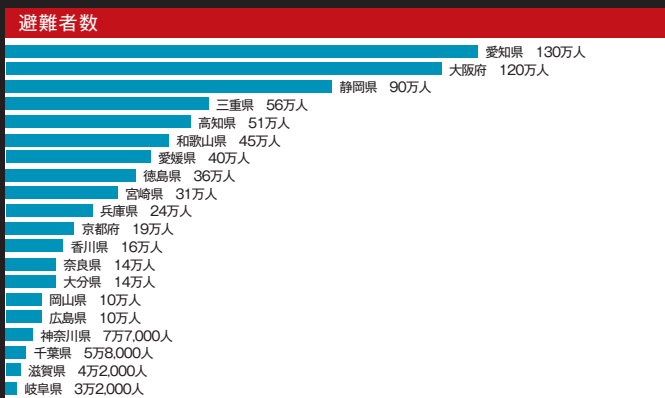
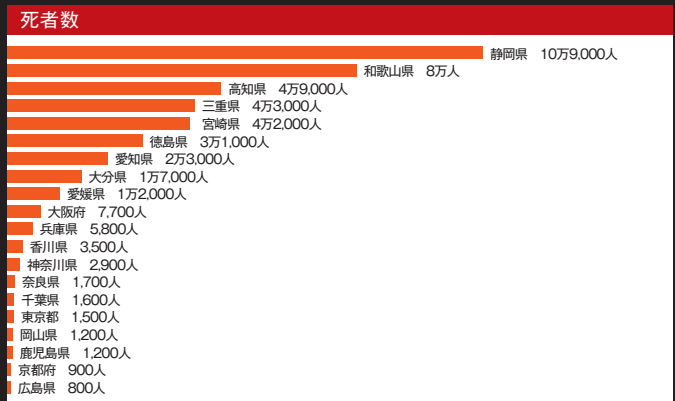
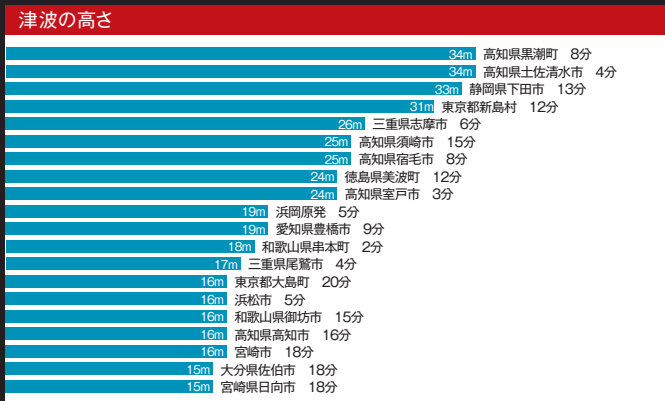
☑ 災害は「大丈夫」「何とかなる」など希望的観測で考えていませんか？

- 近年は台風が巨大化しメガ台風化（関西 2010、関東・東北 2019）し、今後は日本近海での発生から2～3日で威力が強いまま上陸する可能性が高くなっています。（瞬間最大風速 75m は、時速換算で 270 Km にもなります）

☑ 巨大災害の時に行政・地方公共団体の準備は十分と思いますか？

- 巨大災害は被害が甚大で広範囲なため、発生時には国においても無力です。自分の身は自分で守ることが大原則です。

南海トラフ地震の被害想定



災害時に不安はありませんか？

南海トラフ巨大地震の被害は甚大で広範囲です。災害非常食の目安について、これまで非常食3日分と国から指導がありましたが全く不足で1週間分が必要です。（水は1人1日3ℓ×7日＝21ℓ必要）また交通機関の崩壊で、その後の救援物資の供給も期待できません。

「想定外を想定内に」「ご安全に」

一般社団法人 DRCT 災害復興協力チーム

本会は、事務所（準備室）を株式会社ハーツ内におく。

住所：〒488-0826 愛知県尾張旭市大塚町1丁目12番1
 株式会社 ハーツ TEL 052-777-1234 FAX 052-777-1236
 (内) DRCT 準備室 TEL 052-737-1200 FAX 052-737-2200

事務局（準備室）

（災害を考慮した造り）

- ・鉄骨造2階建て（延べ床60坪）
- ・立地：高台、名古屋IC10分、引山IC7分、大森IC10分
- ・ソーラー発電・蓄電設備＝電源喪失用
- ・LPガス熱源＝炊き出し、仮設風呂用
- ・軽油スタンド